

令和4（2022）年度「市長への手紙」年報（概要）

令和4（2022）年度に受け付けた「市長への手紙」の受理・回答状況等は次のとおりです。

1 受理状況

	受付通数				内容別件数			
	令和4	令和3	対前年度		令和4	令和3	対前年度	
	(2022)年度	(2021)年度	増減数	比率	(2022)年度	(2021)年度	増減数	比率
手紙・FAX	587	525	62	111.8%	1,116	940	176	118.7%
メール	1,495	1,962	▲467	76.2%	2,391	3,119	▲728	76.7%
合計	2,082	2,487	▲405	83.7%	3,507	4,059	▲552	86.4%

令和3（2021）年度と比較すると、手紙・FAXが62通増加、メールが467通減少、合計で405通減少しました。

（1）局室区別受理状況（内容別件数）

上位3局で、全体の36.5%を占めています。

1位 子ども未来局（461件）、2位 健康福祉局（442件）、3位 教育委員会事務局（378件）、4位 建設緑政局（266件）、5位 市民文化局（264件）の順となっています。

（2）内容分類別の状況

内容別3,507件のうち、主なものとして、要望が67.5%（2,366件）、苦情が17.0%（595件）、提案が4.4%（155件）となっています。

（3）内容内識別の状況（件数及び主な意見等）

1位	保育園・幼稚園	223件	保育園内でのマスク着用をすべきではないという意見
2位	公園	176件	公園内での喫煙や騒音などの公園利用時のマナーへの苦情
3位	小児医療	117件	小児医療費助成制度の拡充を求める要望
4位	学校教育	116件	学校内でのマスク着用や活動制限の緩和を求める意見
5位	疾病予防	109件	日常生活でのマスク着用基準の緩和を求める意見

（4）性別・年代別

性別 男性：666人、女性：761人、不明：655人

年代別 1位：40代、2位：30代、3位：50代（不明を除く。）

2 回答状況

内容別3,507件のうち、主な処理結果として、「要望等に対応した意見、施策や事業に反映した意見」が34.5%（1,209件）、「意見の趣旨を施策や事業の参考とした意見」が52.7%（1,849件）となっています。

なお、御意見を施策や事業に反映した案件や取組を進めた主な案件は次のとおりです。

【御意見を施策等に反映した案件や取組を進めた主な案件】

- ・ こども文化センターを利用したが、置いてある赤ちゃん用のマット、本、おもちゃなどの備品が非常に古く、もっと清潔感のある備品の購入はできないのか。

→対応：こども文化センターで使用する遊具や図書などの物品の寄附を募集するモデル事業「また遊んでね」プロジェクトを、民間事業者の協力のもと市内4カ所のこども文化センターで開始しました。各こども文化センターが必要としている物品の寄附を募集する告知を連携する民間事業者で行い、使っていない遊具や図書などの発掘・再利用を推進しています。

- ・ 食品ロスが問題になっており、給食の残食がでないような取組をしてほしい。

→対応：残食率が高いメニューを減らすため、令和5年度から中学校給食献立コンクールのサブテーマに「苦手な献立をもっとおいしく！」を加え、食べ残しが多い献立（サラダ、煮物など）や主食のごはんが美味しく食べられる献立を募集することにしました。

- ・ 重度障害者入浴援護事業について、一カ月のサービス利用回数が通常月は6回、夏季扱いの7月～10月は8回だが、湿度の高い6月は夏季扱いにして提供回数を増やしてほしい。

→対応：夏季扱いとなる期間に6月を追加し、一カ月のサービス利用回数が8回となる期間を拡大しました。

- ・ 大師公園にオムツ交換ができるスペースがないため、設置してほしい。

→対応：男性がオムツ交換できる設備がなかったため、公園管理事務所の女子更衣室に設置していたベビーベッドを共用部分に移設し、どなたでも利用できるよう運用を見直しました。

- ・ 上級救命講習について、申込日の9時から電話での先着申込となっているが、電話が長時間繋がらず、日勤者には負担が大きいため、受講者の決定は抽選にしてほしい。

→対応：要望内容について消防防災指導公社と協議し、上級救命講習の受講者の決定を先着順から抽選に変更しました。

担当 川崎市総務企画局都市政策部企画調整課
電話 044-200-2367
内線 22401